

人事・賃金制度改悪反対！ シリーズ⑥

無事故は社員の目標のひとつ 表彰制度を廃止する理由はない！

会社から無事故表彰制度の廃止が提案されました。「当社の業務運営に関わる全てが重要な業務である」というのが、廃止の理由です。業務の重要度は全職種同じかもしれませんが、事故のリスクの差は歴然としています。

国鉄時代から「デスクワークは消しゴムで消せる。しかし、乗務員の仕事は消しゴムで消せない。些細なミスが重大事故に繋がる。デスクワークは考える時間があれば、聞くこともできる。乗務員はそれができない。とっさの判断でもミスは絶対に許されない。責任度が高い職種である」と教育されてきました。事故の割合は、運転士、車掌が圧倒的に高いことは言うまでもありません。デスクワークと列車を動かす仕事を同列に扱って良いのでしょうか。

事故を起こしたくて起こす乗務員は誰もいません。誰もが無事故を目指して仕事をしています。無事故表彰を目標にしている乗務員も必ずいます。その糧となる表彰制度を廃止すれば、目標を失う乗務員は少なからずいるはずです。モチベーションの低下にも繋がることでしょう。

そもそも無事故表彰制度は、事故の件数を削減するためにつくられた制度です。廃止の理由はないはずです。「努力した社員が報われる制度」に相反することです。会社は、無事故を貫徹した社員は努力したことにはならないとでも言いたいのでしょうか。無事故表彰制度は残すべきです。